

# 2023年3月期第3四半期 決算説明会 質疑応答要旨

## 【業績 実績・予想】

Q: 年間計画を修正しているが、車両の台数前提の見込み、インフレ高騰費用の回収や交渉の状況を含め説明してほしい。

A: 台数は年初公表に対し、中間決算時は年間12%下振れと見ていたが、今回精査し年間14%ほどの下振れと見て追加修正した。個々のメーカーの積み上げではなく、全体で2%程度減ると見ている。また中国での12月の販売下振れが大きかったが、3Q累計ではあまり含まれておらず、引き続き状況を注視していく。

材料費・エネルギー費・物流費などの価格高騰は、まず仕入先に、購入総額の10%弱に相当する1,500億円の価格反映を実施している。これをカーメーカーのご理解を得て価格に反映いただくことで、自社での費用低減努力と合わせて年間影響の9割挽回見込みができています。

Q: 半導体不足について、有馬社長の年末インタビューによると夏場には生産量が上向くのではないかとのことだが詳しく聞きたい。

A: 半導体不足は様々な要因があるが、当社としては1年先ほどの長期発注での確定や、半導体の世代交代を認めるなど新しい契約に切り替えていく。各社もこうした活動を行っているとのことなので、全体的に徐々に安定していくのではないかと見ている。また、代替品に置き換える設計変更や、仕入先の複数建て、各社の増産効果も出てくるため、今年の夏頃以降に需給が緩むだろうと見ている。

## 【設備投資】

Q: 中国・欧州における電動化関連投資の強化について教えてください。

A: 欧州の内燃部品を扱う拠点で、24年頃の電動化製品量産開始に向けた準備を進めている。中国はインバーターを中心に強化する。従来天津に集結していたが、南部のお客様が増加してきたため、広州にある拠点を内燃部品系からECUなど電子の南部拠点化しようとしている。お客様の近くで納入リスクを抑え物流費を低減しながら進めていく。

## 【製品開発】

Q: 次の電動化製品の開発状況についてアップデートをお願いしたい。

A: BEV用SiCインバーターや、様々な機能を一体化して小型化した次世代のBEV用ヒートポンプなどを進めている。バッテリーマネジメントユニット（電池監視ECU）も欧州メーカー含め拡販を進める。

以上